

柏崎のガス事業

91年のあゆみ

柏崎の四季

春の訪れ



赤坂山公園 満開の桜



夢の森公園 カキツバタ

夏の賑わい



ぎおん柏崎まつり 海の大花火



ぎおん柏崎まつり たる仁和賀

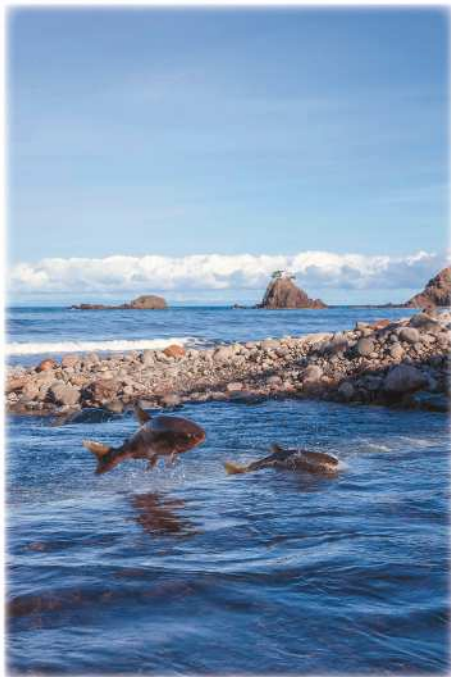


鯨波海水浴場

秋の彩り



松雲山荘 紅葉ライトアップ



鮭の溯上



聖が鼻

冬の静けさ



米山と米山大橋



雪景色の川内ダム



長嶺大池

暮らしを支えるパートナー

それは、都市ガス



鏡町庁舎



藤井供給所



加納供給所



中通供給所



刈羽供給所



西山供給所



供給所バルブ点検



定期保安検査



工作車両



導管漏えい調査



地元高校生インターンシップ



情報誌あめんぼの料理

ごあいさつ

「民から公へ、公から民へ」



柏崎市長 櫻井雅浩

大正15(1926)年6月24日、柏崎町田町(東本町1)の常福寺さんで、柏崎瓦斯(株)が生まれました。飯塚謙三氏、内藤久寛氏の後ろ盾を得て、二宮傳右工門氏が初代社長を務められたことが記されています。第二次世界大戦も終盤、東京瓦斯に吸収されそうになったとき、飯塚氏が「それであればいっそ柏崎市へ」との言葉で市ガスが生まれています。

私は二十数年前、議会でガスの民営化を訴えました。議会では初めてであったと思います。その後、行政改革の中で民営化の流れが始まったと認識しています。ある意味で私は今回の民営化について人並み以上の思いがあり、責任も感じています。

柏崎市ガスの歴史には数々の栄光があります。例えば、昭和33年には普及率72.2%、日本一となっています。昭和50年には熱量変更という大事業を事故無く終わらせています。これらは公務員たる柏崎市ガス水道局職員の文字通り流した汗が柏崎市民の共感と理解と共にもたらしたものであります。

苦難も多かったと思います。近年でいえば中越沖地震の折には大きな被害を受け、全国のガス事業者から力強く、温かな支援を頂きました。復旧本部となった産業文化会館(駅前2)の隣に事務所を持っていた私はせめてもの気持ちを看板に託しました。



設立者たる民間人、先人の思い、受け継いだ公務員の矜持。民間で20年、公営で71年、そして平成30年4月1日、北陸瓦斯株式会社様にバトンタッチいたします。改めて長い間お客様として市ガスをお使いいただいた市民の皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後ともガスが灯す温かな炎を身近なものとしていただけたら幸いです。

発刊にあたって

「これまでのご愛顧に感謝」



柏崎市ガス水道局長
春川 修一

本市のガス事業は、大正15年に柏崎瓦斯株式会社が設立され、昭和2年に606戸に供給したのが始まりとなります。

設立後、柏崎瓦斯株式会社は順調に発展していきましたが、日本が戦時体制に入っていくと同時に政府はガス事業者に対して統合命令を出し、柏崎瓦斯株式会社は、東京瓦斯株式会社への吸収合併が指示されました。しかし、会社設立にご尽力された飯塚謙三氏の「柏崎市に移管すべし」との主張から柏崎市へ移管が決定され、昭和20年12月1日に20年間の幕を閉じました。

市営ガス事業は、戦争の爪痕から厳しい船出となりましたが、その後は日本の高度成長に歩を合わせ、市街地を中心に郊外へ供給区域を広げ、供給戸数を伸ばしてきました。

さらに、平成17年5月1日の市町合併に伴い、西山刈羽ガス企業団を譲受し、旧西山町、刈羽村が新たな供給区域となり、現在、約3万戸の供給戸数となりました。

本市のガス事業は、民間企業からの創業、そして公営企業と事業を繋げてきましたが、公営企業の役割を全うし、平成30年4月1日に北陸瓦斯株式会社様に事業を引き継ぎます。

最後に、新潟県中越沖地震では、供給区域全てのお客さまへの供給を停止せざるを得ない事態となったことは、本市ガス事業始まって以来となる出来事でありました。地震発生直後から、国、県、日本ガス協会を始め、多くのガス事業者の皆さまからいち早く応援を賜りましたこと、改めて感謝申し上げます。また、これまで長きにわたり、本市ガス事業にご尽力いただいた皆さま、ガスをお使いいただいているお客さまにも感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。これまでのご愛顧、誠にありがとうございました。

目 次

柏崎の四季	2
暮らしを支えるパートナー それは、都市ガス	6

ごあいさつ	柏崎市長	櫻井 雅浩	8
発刊にあたって	柏崎市ガス水道局長	春川 修一	9

第一部 通史

第一章 柏崎瓦斯株式会社設立から市営移管まで	15
【大正15年～昭和20年】		
1 柏崎のガス事業の始まり		
2 柏崎瓦斯（株）の設立		
3 供給開始		
4 料金値下げ運動		
5 市営移管へ		
第二章 市民の福祉向上、そして創業50年	23
【昭和20年～昭和49年】		
1 市営ガス事業のスタート		
2 地方公営企業法の施行		
3 全国一の普及率		
4 中庄環状線完成		
5 豪雪被害		
6 原料ガスの受け入れ複数化		
7 第2供給区域への拡張		
8 中央油帯の開発		
9 中通地区へのガス供給		
10 創業50年を迎えたガス事業		

第三章	ガス事業のさらなる発展を目指して 【昭和50年～平成11年】	・・・	31
	1 熱量変更		
	2 供給区域の拡大と安定供給を目指して		
	3 ガス水道局庁舎の新築		
	4 中鯖石地区拡張、加納供給所建設		
	5 藤井供給所改良事業		
第四章	西山刈羽ガス企業団設立、柏崎市へ事業譲渡 【昭和48年～平成17年】	・・・	39
	1 石油のまち・西山の始まり		
	2 刈羽にも築かれた一大油田		
	3 両町村に存在していたガス消費組合		
	4 西山刈羽ガス企業団の設立まで		
	5 平成の合併に伴う事業譲渡		
第五章	中越沖地震発生から復旧まで 【平成19年】	・・・	47
	1 ふるさとを襲った大きな揺れ		
	2 現場で起きていたこと		
	3 応援体制終了、現地災害対策本部解散		
	4 復旧に要した経費とその後のガス事業の経営		
第六章	柏崎のガス事業は再び民間へ 【平成27年～平成30年】	・・・	55
	1 公営ガス事業の民間譲渡		
	2 民営化の経緯		
	3 再開後の作業		
	4 柏崎市ガス事業民営化基本方針		
	5 譲渡候補者の選定		
	6 優先交渉権者の決定		
	7 仮契約の締結、本契約		
	8 北陸瓦斯（株）へ期待すること		

第二部	テーマ史	
第一章	経営、サービスから見たガス事業	・・・ 63
	1 経営から見たガス事業	
	2 お客さま目線でのサービス	
	3 ガス事業の経営	
第二章	震災を経験したガス事業として	・・・ 73
	1 中越沖時地震の被害状況	
	2 地震対策の取り組み	
	3 人材育成	
資料編		・・・ 81
	歴代ガス事業管理者およびガス水道局長	
	柏崎市ガス事業の概要	
	各種統計資料	
	柏崎市ガス事業年表	
あとがき		・・・ 94

【凡例】

- ・人名、会社名、その他組織名などは、敬称を省略した。
- ・固有名詞のみ、「瓦斯」と表記した。
- ・年の表記は和暦のみとしたが、明確な年が不明な場合は、カッコ書きで西暦を表記した。
- ・単位は、 m^2 、 m^3 、kcal、 l の記号で表記した。
- ・圧力はPa、熱量はJで表記した。
- ・数値は、アラビア数字で表記したが、概数については、〇〇億円、〇〇千 m^3 などと表記した。
- ・叙述期間は、平成29年7月までであるが、統計データについては平成28年度までとした。
- ・引用文については、原文表記としているため上記凡例と異なっている。
- ・本文中で説明ができない事項は、各項毎で注意書きを表記した。